

藤井 明研究室

[建築空間に関する調査・研究]

生産技術研究所 第5部 (人間・社会系)

●都市形態学

工学系研究科建築学専攻

伝統的住居の調査

Survey on Dwelling Culture of Traditional Villages

これまでに約60ヶ国、600ヶ所以上の伝統的集落・住居について現地調査を行い、空間構成の原理を相互に比較することにより、居住文化の特性について考察している。

最近の調査地域は、2001年 韓国、2003/05年 ベトナム、2004/09年 中国、2007年 ブルキナファソ・トーゴ・ベナン、2009年 ラオス。

石碉

中国四川省に住む羌(チャン)族や嘉絨蔵(ギャロンチベット)族は石碉(せきちょう)と呼ばれる石の塔を住居に付属して造っている。この塔は、外敵が襲来した時に立て籠もって戦うための砦で、内部には幾層にも渡って木造の床が架けられている。塔の高さは約30～40mで、4角い平面形のものが多いが、中には8角形の星形や、13角形のものもある。石碉を築く際に、外部に足場は建てず、内部に床面を築きながら順次、石を積み上げてゆく。壁面をよく見ると、石の層の間に木材が1m位の間隔で水平方向に挟み込んである。柔らかい材を挟むことにより石どうしの歪みが吸収され、隙間の無い石積が可能になっている。外形に現れたエッジのシャープさが、技術の高さを示している。



中国四川省の集落調査 (莫洛村 2009年)

建築空間の設計

Architectural Design

香泉郷中心小学校

2008年の四川省汶川地震では多くの学校建築が被害を受けた。香泉小学校もそのひとつで、各国からの義援金と中国政府の援助を得て、昨年6月に再建された。全寮制のこの学校で学んでいるのは少数民族の羌(チャン)族で、彼らの伝統的な建築様式であるテラスや階段が随所に取り込まれた空間になっている。



香泉郷中心小学校の設計(2009年)